



2024年9月20日発行

拝啓

夏休みも終わり、また新たな学期を迎えましたが皆さんどうお過ごしでしょうか。

夏休み気分がまだまだ抜けないな…と思う方は、気持ちを切り替えるために図書館に足を運んでみてはいかがでしょうか。気持ちを新たに
する素敵な出会いがあるかもしれません。

かしこ

～今月号のラインナップ～

Calendar

2024年10月～11月カレンダー

LiLian Special Info.

秋にミステリを添えたい

今月の一冊

『太陽のパスタ、豆のスープ』

LiLian Interview

文学部 英語英米文化学科

アシューロヴァ ユミダホン
ASHUROVA, Umidahon 先生



2024年10月・11月 カレンダー

10月

◎ 8:30~20:00 ○ 9:00~16:30

日	月	火	水	木	金	土
		1 ◎	2 ◎	3 ◎	4 ◎	5 ○
6 休館	7 ◎	8 ◎	9 ◎	10 ◎	11 ◎	12 ○
13 休館	14 休館	15 休館	16 ◎	17 ○	18 ○	19 ○
20 休館	21 ◎	22 ◎	23 ◎	24 ◎	25 ◎	26 ○
27 休館	28 ◎	29 ◎	30 ◎	31 ◎		

11月

◎ 8:30~20:00 ○ 9:00~16:30

日	月	火	水	木	金	土
					1 ◎	2 ○
3 休館	4 ◎	5 ◎	6 ◎	7 ◎	8 ◎	9 ○
10 休館	11 ◎	12 ◎	13 ◎	14 ◎	15 ◎	16 ○
17 休館	18 ◎	19 ◎	20 ◎	21 ◎	22 ◎	23 ○
24 休館	25 ◎	26 ◎	27 ◎	28 ◎	29 ◎	30 ○

最新情報はHPを
ご確認ください →



LiLian Special Info.



最近コーヒーゼリーを買ったと思ったら冷凍しないといけないタイプで食べ損ねてしまいました。新しいモノは失敗がつきものですね。そこで新しいジャンルに挑戦したい人にお薦めしたいのが“短編小説”！普段読まないジャンルに挑戦するのももぴったりではないでしょうか？ということで、来たる読書の秋に向けて私の主観に基づいたお薦めの“短編ミステリ本”をご紹介します！

『謎解きはディナーのあとで』東川篤哉/著

場所：閲覧室1F（文庫・新書） 請求記号：913.6/H557/a(1)/B12

「お嬢様の目は節穴でございますか？」いわずと知れた東川篤哉の人気シリーズ。ドラマ・映画で見たことある人もいるはず！新米刑事として普通に働く大財閥のお嬢様と暴言すれすれの毒舌を吐く執事が織りなす珠玉のコメディ系ミステリ。6つの事件と書き下ろしSS(ショートストーリー)と盛りだくさんな1冊で普段ミステリを読まない人にもお薦めな作品です!!

『むかしむかしあるところに、死体がありました。』青柳碧人/著

場所：閲覧室2F（読書コーナー） 請求記号：913.6/A57/5

昔話と本格ミステリの大胆な組み合わせ！！ユニークな表紙は店頭で見たことがある人も多いのでは？「花咲かじいさん×ダイニングメッセージ」に「一寸法師×不在証明」などミステリ初心者から上級者まで楽しめること間違いなし。現場の地図や本の装丁にも要注意。おっと、これ以上言うのはやめにしましょう…。「昔ばなし」シリーズは3作品。西洋童話をベースにしたシリーズも要チェック！

一冊の本で複数の作品と出会える短編集は普段読まないジャンルへの入り口となってくれるはず。涼しげな風が吹く深い夜にはミステリの世界へ。

(ひな)

*** 今月の一冊 ***

『太陽のパスタ、豆のスープ』 宮下奈都 / 著



913.6
Mi83
3

閲覧室2F(読書コーナー文庫)

もし、とても悲しいことや理不尽なことが起きて落ち込んでしまったとき、あなたは何をしますか?そんなときは「ドリフターズ・リスト」を書いてみるとよいかもしれません。

主人公の明日羽(あすわ)は、結婚式直前に婚約を解消されてしまい、失意のどん底にいました。落ち込む明日羽を見た叔母のロッカさんは「ドリフターズ・リスト」を作ることを提案します。「ドリフターズ・リスト」とは、自分のやりたいことやほしいものを書き記したリストのことを言います。明日羽はリストを作りながら、今まで後悔せずに過ごしてこられたか、相手の意見に流されていなかったかと自分の人生を振り返ります。そして、やりたいことを少しずつ探しながら、自分の心を見つめ直します。

毎日やるせないことがたくさんあっても、ほんのちょっとだけやりたいことを見つければ、人生は案外楽しくなるかもしれない。そう思わせてくれる優しい小説です。



(ひさの)



LiLian Interview

大すきな先生に
インタビューに
行こう 62

文学部 英語英米文化学科

アシューロバ ウミダホン
ASHUROVA, Umidahon 先生



1. 日本にきたきっかけは何ですか？

JICA による ODA の一環として、九州大学に奨学生として来日しました。2000 人の応募者の中から選ばれた 20 人の 1 人で、その中で女性は私 1 人でした。「社会の中での女性の立場」という面で、日本は国際社会から批判されることが多いですが、私はその評価が 100% 正しいとは思えず、実際にその国の現状を調べて研究したい、と考えたことがきっかけです。来日初日は丁度ワールドカップの最中だったので、サッカー観戦をしました。

2. 母国ウズベキスタンでの思い出を教えてください

昔の日本に似ていて、子ども 6 人、両親、祖父母、叔父の家族の大家族で暮らしていました。ウズベキスタンにもコタツがあるのですが、冬場には皆でコタツに足をを入れて干し柿を食べたり、10 歳下の弟をゆりかごにいれてゆりかご歌を歌いながら晩ご飯を食べたりしていたことが思い出に残っていますね。日本の肉まんのような料理があり、両親がクイズを出してくれて兄弟で最後の 1 つを巡ってクイズ大会をしていました。

3. 旅行するのにお勧めの国はありますか？

トルコのイスタンブールです。アジアとヨーロッパの文化を同時に経験でき、地下鉄に乗るだけでも多文化多言語を感じるができますよ。また、最近インスタ映えのスポットとしても注目されていて、綺麗な青い空とカモメの風景など、自然とそうでもないものとのコントラストや、現在と歴史的建造物の差などを感じることができて、とても楽しいと思います。また、食べ物も安くて美味しく、「カフヴァルトウ」という朝食は、次々と料理や紅茶が運ばれてきて 800~1000 円ほどで堪能できます。

ウズベキスタンもおすすめで、中央アジアの昔からある町の風景や仏教の遺跡を見ることができます。最近では体験型のスポットも増えて、シルクや刃物を作る工場の見学や、独特な藍色の陶器作りを体験できるところもあります。トルコの航空会社を利用すると、イスタンブールからの往復で安く訪れることができますよ。

4. 好きな食べ物は何かですか？

お寿司が好きで特にサーモンのお寿司が好きです。海外で現地の方とお寿司屋さんに行くことが多いのですが、どの国に行ってもアレンジがされていて日本のものとは違っているなと感じます。ウズベキスタンは 2 つの国を超えないと海に行けないので魚は貴重です。お寿司を食べられる環境を大切にしてくださいね。

5. 休日はどのように過ごされていますか？

週末は別宅の庭で色々なものを育てています。大家族で田舎の生活をしてきたので、時々凄く自然に戻りたくなります。今はトマトやパプリカ、ナスなどを育てていて、隣のおじさんから野菜作りについて教わったりお裾分けをもらったりもします。電波があまりない環境での生活はよいリフレッシュになりますよ。



6. 研究内容と研究のきっかけを教えてください

子どもの司法面接での通訳について研究をしています。海外にルーツのある子どもたちは家庭では親の言語を使用することが多く、家庭内のことを日本語で話すのが不得意な傾向にあります。そのため、取り調べの場や虐待で保護された場面などで通訳者が必要となります。通訳者はより正確に伝えるために子どもにわかりやすい言葉で通訳したり、文化の違いや中立性も大切にしなければなりません。データを集めるために模擬面接を行い、分析をして発表をしています。

自分も海外にルーツのある子どもを持つ母親だから、ということがきっかけの 1 つです。自分が体験したコミュニケーションの壁はなるべく減ってほしいと思います。また、法律の勉強をしていたので法律と関係のあることで人のために何かをしたいと思いました。法律や政策が変わっていけば世の中も良くなるため、法律を通してサポートしたいと考えました。

7. 尊敬する人物を教えてください

尊敬する人は、私たちの周りにたくさんいると思っています、私の場合は母親です。再婚相手の子どもも含め、6人を隔てなく育ててくれました。また、すごく本を読むことが好きな人で、朝の5時や6時に起きて10分くらいの時間でも本を読んだり、校長としての仕事をして帰宅し、子ども達のご飯を用意した後もまた読書したりしていました。例えば『アンナ・カレーニナ』という800数十ページの文学作品を読んでいました。そのように本が好きな母でしたから、私は何千冊もの本を買って、母が校長をしていた学校に母の名前がついた図書館をつくりました。



8. 好きな本は何ですか？

エリフ・シャファクという女性作家の本が好きです。トルコ生まれの作家ですが英語で本を書いています。彼女の小説は女性主人公が殆どで、オスマン帝国のプリンセスや現代の一般女性、娼婦などさまざまな立場の女性を描いています。もう1人紹介したい作家は『The Black Book』等を書いたオルハン・パムクです。ノーベル文学賞を受賞した彼のスタイルは独特で、トルコの絶滅の危機にある少数民族など、現実の情報を物語の中に上手に入れ込んでいます。同じ学科の先生に『同志少女よ、敵を撃て』を勧められて読んだのですが、パムクとスタイルが似ていて印象的でした。今の世界では非母語話者が英語で本を書き、その国の文化を知らせています。これらの本は日本語訳されていないものも多いですが、英語学習者が書いているので読みやすいですよ。

🚩 インタビューを終えて 🚩

研究のきっかけや好きな本、休日の過ごし方など授業を受けているだけでは知らなかった先生の考え方や一面について知ることができて嬉しかったです。これからも勉強を続け、いつか紹介して下さった本を読めるようになりたいです。貴重なお時間をいただきありがとうございました！
(ほのか)

終始、私たちや記事のことを気かけながら、興味深いお話をたくさんしてくださりインタビューの間ずっと楽しかったです!! 旅行先や本のおすすめポイントはどれも心惹かれるものばかりで、ぜひ参考にしたいと思いました。また、本を読んだ時に注目されるところが私と全く違って、新鮮でした！
(みさ)

* * * 紹介された本（金城学院大学図書館所蔵） * * *

『The Architect's Apprentice』 エリフ・シャファク(Elif Shafak)/著

請求記号：準備中

『The Black Book』 オルハン・パムク(Orhan Pamuk)/著

請求記号：準備中

『同志少女よ、敵を撃て』 逢坂冬馬/著 請求記号：913.6/A253

